

不登校生徒の学校復帰について

【福生市立 A 中学校の取組】

不登校生徒の状況

対象生徒は、昨年度、両親の家庭内のトラブルにより、精神的に不安定な状態に陥った。そのことで、将来への希望を失い、見守りが必要な状態となった。結果的に年度末まで不登校となった。しかし、年度が変わり、以下の取組により登校復帰を果たすこととなった。

具体的な取組

加配教員が中心となり、対象生徒の現状について情報共有を行い、個別支援カルテに基づき、校内支援委員会において対応についてのアセスメントを行った。

加配教員が、学級担任と連携し ICT を活用して、対象生徒との連絡用クラウドを作成し、連絡を継続して行った。

また、別室（校内相談室）への登校をコーディネートとした。

校内支援委員会でアセスメントをもとに、加配教員がコーディネートし、SSW、子ども家庭支援センター、教育支援センターの関係機関の参加のもと、校内支援委員会で、ケース会議を開いた。



校内支援委員会での検討の様子

加配教員が、SSW及び家庭と子どもの支援員を対象生徒の保護者をつなぎ、登校支援を継続的に行った。また、関係機関等と連携し、定期的な家庭訪問を行うことでつながりを維持し続けた。

成果

対象の不登校生徒が、進級後、しばらくして学校に登校するようになった。登校時は、毎日、登校できるわけではないが、週2～3日のペースで登校し、ふだんの学校生活を送ることができた。

課題

加配教員がいない状況では、教員にゆとりがないため、関係機関との連携が滞る可能性があることが課題である。